

はじめに

私たち人類と地球は、現在、様々な要因で持続的生存が脅かされる諸課題に直面しています。国際高等研究所（以下、高等研）の理念である「人類の未来と幸福のために何を研究すべきかを研究する」とは、持続可能社会の実現のための課題を探求し、発見し、社会に問いかけ、皆で議論し、解決策を国境や立場を超えて「一緒に考えていく」ことです。この理念のもと、高等研は設立以来、持続可能社会の実現に向けて様々な研究活動を展開してきました。しかし、経済格差、貧困問題、食糧問題、環境問題など、世界はますます持続不可能な方向に突き進んでいるようにも映ります。このような状況において、高等研の掲げる基本理念は、色あせないばかりか人類と地球の未来に対してますます今日的な意味をもつものと自負しています。

2014年8月に設立30周年を迎えて改めて高等研の存在意義やこれからの活動の方向性を広く認識していただけた機会として、創設30周年記念フォーラムを開催いたしました。フォーラムをとおして「人類・その超えるべき課題の先の未来」という主テーマを置き、持続可能社会のあり方について、「幸福観」、「安心・安全」、「科学のあり方」、「社会のあり方」といった観点から議論を繰り広げました。大阪、仙台、東京、京都における計4回のフォーラムをとおして、1,000名を超える多くの方々と高等研の持つ問題意識を共有する機会となりました。今後も人類の幸福や地球の持続可能性に真摯に向き合い、社会で見過ごされてきた問いかけを行ってまいります。本レポートはフォーラムの一端ではありますが、皆様と共に歩む一助となることを祈念します。

人・幸福・未来 ～人類・その超えるべき課題の先の未来～

INDEX

第1回 大阪フォーラム	【テーマ】「持続可能性と幸福観」	3
第2回 仙台フォーラム	【テーマ】「持続可能社会の構築と安心・安全」	5
第3回 東京フォーラム	【テーマ】「持続可能社会の構築と科学」	7
第4回 けいはんなフォーラム	【テーマ】「人類・その超えるべき課題の先の未来」	9



人・幸福・未来

ご挨拶

国際高等研究所としての固有の価値の創出を目指して

高等研の設立にあたりましては、発起人の中心人物であり初代理事長をお務め頂いた元京都大学総長の奥田東先生、また関西をはじめ全国の産学公民の多くの皆様のご協力を賜りました。『成長の限界』に触発された奥田先生は、日本社会が高度経済成長に沸く中、人類や地球の持続可能性の問題にいち早く着目され、高等研の必要性を提唱されました。高等研はその使命として、基本理念のよりよい具現化をすすめるとともに、現代社会と次世代に対する役割と責任を継続的に果たさなければなりません。高等研は、移り変わりが激しく、短期的な成果が求められる今日の社会において、長期的な視点で人類の未来と幸福を考える稀有な場所であります。一方、価値観が多様化し諸課題が複雑化した今日の社会において、これから高等研の活動は、ソーシャル・コミュニケーションを強化し、社会的・公益的価値の最大化を図り、さらには国内外の財団や研究所との協働基盤も整え、シンクタンク機能も果たしながら、利害関係が交錯する課題に取り組み、関係者の態度を変えるところまで踏み込む必要もあるでしょう。我々のもつ問題意識を国内外に発信し、社会に問い合わせ、そして議論し、解決策を考え、研究成果の社会実装を目指しながら、高等研としての固有の価値を創出し、提供しつづけられるよう取り組んで参ります。



公益財団法人
国際高等研究所

理事長
立石 義雄

人類と地球のあるべき姿を世界に対して問う

人類や地球の持続不可能性を目の前にして、人類がお互いに平和的に共存していくためには、日本人が歴史的に築き上げてきたものの考え方の重要性を世界に問いかけることが大切です。高等研は、日本の歴史において文化的・経済的価値を蓄積してきた京阪奈の中心にあって、日本の優れた文化、芸術、技能、技術、風土、環境を俯瞰し、課題の発見から解決まで、それらを総合できる位置にあります。現在、地球社会が直面している種々の困難な現状を俯瞰的に把握したうえで、日本から、高等研からしか出来ないこととして、「将来の地球社会を考えた時の科学技術の在り方」、「循環型、定常経済社会の構築の必要性とその方策」、「多様な価値観を持つ社会や国家の平和的共存のための方策」「けいはんな学研都市の30年後のあるべき姿」という4つの課題に集中して取り組んでいます。教育者、科学者、企業人、知識人、宗教者、一般市民が、国や組織、分野を超えて集い、自由な雰囲気と規律の下で議論を展開し、文化、社会、経済の新しい方向性を見い出し実践する起点として、高等研はこれからも研究活動を通して人類と地球のあるべき姿を世界に対して問い合わせ続けます。



公益財団法人
国際高等研究所

所長
長尾 真

京都大学名誉教授
京都大学元総長